

ひろしまジュニア国際フォーラム 2018
広島宣言

<前文>

私達、平和を愛するひろしまジュニア国際フォーラムの参加者は33か国・地域から、ここ広島に集い、2018年8月19日から21日まで過ごしました。私達は、核兵器廃絶と復興平和構築のイニシアティブについて学ぶために集い、そして今も学び続けています。私達のミッションは、世界平和のために、私達ができることについて、自分達の経験やアイデアを共有し、議論し、合意することでした。

核軍縮に関する最近の進展を考えてみると、良い面と悪い面があることに気づきます。核軍縮については、昨年、核兵器禁止条約が可決されました。市民社会の核兵器廃絶に向けた努力がICANのノーベル平和賞受賞という結果につながりました。これに加え、今年は2つの歴史的な首脳会談が行われました。4月には、北朝鮮と韓国首脳会談、6月には米国と北朝鮮首脳会談がシンガポールで行われました。どちらの首脳会談においても、朝鮮半島の非核化に向けた力強い宣誓が行われました。しかしながら、核兵器禁止条約をめぐるのは、核兵器廃絶に向けた進め方の相違により、核兵器国と非核兵器国の間に大きな溝が生じました。その上、北朝鮮の非核化のプロセスが、迅速にスムーズに行われるのかどうか、不確実な状況です。

世界の将来は不透明で、ある程度曖昧さがあることは言うまでもありません。しかし、だからこそ、私達は今日の若者代表として、よりよい世界を築くために、学ぶこと、議論すること、追求することをやめるべきではないと思います。

私達が出会った場所、広島は、特別な歴史と遺産がある場所であり、覚醒を呼び起こす場所です。直面する困難を乗り越え、続く次世代を励ますために、私達には、広島やその他多くのコミュニティに対して、ここで学び議論したことを伝えていく責任があると考えています。

■ 核兵器廃絶

まず、核兵器の廃絶に関する課題について考えました。

1 核兵器不拡散条約（NPT）は、核兵器の保有をめぐる、不平等性を内包しています。なぜならこの条約では、締約国を、核兵器国と非核兵器国の2つのグループに分類するからです。非核兵器国の一部は、自らは核兵器を持たないものの、安全保障を核兵器国の核の傘に依存しています。これが、核兵器国と非核兵器国との溝のみならず、核兵器禁止条約をめぐる、非核兵器国の間にも亀裂を生んでいるのです。

私達は、すべての核兵器国が、核廃絶をするための別のサミットの開催を呼びかけます。加えて核兵器国とその同盟国である非核兵器国は、自らの考え方を換え、核兵器の非人道性を理解すべきです。日本はまた核兵器国と非核兵器国の橋渡しとなる重要な役割を担うべきです。

2 核兵器廃絶に対する信頼性の欠如から、世界中、特に米国やロシアには、まだ多くの核兵器があります。核兵器国は核廃絶の必要性について認識しているにもかかわらず、安全保障のジレンマに陥り、実践できないままです。同様に、一部の非核兵器国は安全保障のために、自国の核兵器開発プログラムを決してあきらめようとはしません。実際に、北朝鮮の核開発問題は、周辺国のみならず、世界中の安全保障上の大きな脅威となっています。

こうした複雑な安全保障問題を解決するために、国家のリーダー及び一般市民は、相互信頼関係を改善し、その信頼関係に基づく関係を国家間のものへと発展させていく必要があると思います。特に、こうした目的のため、国家が意見を自由にオープンに交し、安全保障問題に関して相互理解を進展させるような定期的な会合を開催することが必要です。加えて、マスメディアやSNSは核兵器廃絶への意識を啓発することに使われるべきで、各国間の不信を払拭するための努力が払われるべきです。

3 さらに、私達は核兵器の環境への影響から目をそらすことはできません。核兵器の製造過程で作られる核廃棄物は、すでに山積みとなっており、潜在的に、環境に対して放射能汚染の危機を引き起こす可能性があります。言うまでもなく、核兵器が一度使用されれば、地球に大規模で壊滅的な影響をもたらし、その結果は言語を絶するものとなります。長期にわたる放射能の影響でとりわけ食糧生産に多大な影響がもたらされ、壊滅的な貧困が世界中でおこりうるかもしれません。

私達は、こうした環境的な理由からも、核兵器の実験、製造、使用は禁止される必要があると思います。放射線の人体や環境への長期的影響を無視することはできません。私達は国際社会が核廃棄物の適切な処理方法に関する科学研究へ資金を出し、投資をするべきだと思います。次世代へ、大きな負担を残すことはできません。

■ 復興と平和構築

次に、平和構築に関する課題について考えました。

1. 平和構築と貧困削減は表裏一体です。地球規模で見ると、8億人の人々が、未だに1日1.9米ドル未満で暮らしています。貧困撲滅は依然として課題である一方、国内で拡大する経済格差も、途上国、先進国の双方で、新しい課題となっていると指摘されています。こうした不平等から生じる貧困は、しばしばテロリズムの根本原因の一つになっています。さらに、メディアでも報道されていますが、増大する国家の軍事費は、教育や公衆衛生といった他のセクターで使えるはずです。

貧困を克服するためには、国際社会の中で責任を分担し、必要とする国へ継続的な支援を実施していく必要があります。例えば日本は、最も発展した国の1つですが、第二次世界大戦後に国際社会からの開発支援を受けて発展してきました。同様に、こうした支援は、国レベルのみならず、市民社会を含めた国際社会全体で行われるべきです。国連は加盟国に対してこうした支援を促すべきです。また、核兵器国は特に核実験の影響に苦しむ国々に対して支援を行うべきであると考えます。

2. 今日、国内での差別や人種、性別、宗教や文化をめぐる偏見は、世界中で人々への信頼を損ない、誤解を生んでいます。教育制度はこれらの課題の深刻さについて、皆が十分に認識できるようには機能していません。こうした否定的な態度が、不正を生み出し、それが人々を社会的、政治的、経済的に不利な状況に押しとどめることになっています。この信頼の欠如が暴力の文化と不調和を助長しており、しばしばコミュニティの機能低下を引き起こしています。

差別を克服するため、私達はすべての人が教育へアクセスできることと教育の質の重要性を強調します。例えば、教師の研修は教育の質を確保する上で非常に重要です。教育は、この世界で積極的平和を追求する最も良い方法です。

教育を通して人々は批評したり、心を開いたり、より平和な世界のために、積極的に話をしたりすることができるようになります。自分達のコミュニティやその歴史を知ることも重要ですが、世界で私達が直面している現在の課題について学ぶことも同様に重要なことです。平和なコミュニティとは、みんなが安全に暮らせるコミュニティというだけでなく、人々がお互いの違いを受け入れ、尊重し、大切にし、暴力に訴えるのではなく、対話によって課題解決を行うコミュニティです。

3. マスメディアは、今日私達が直面する深刻な課題について伝える役割を十分に果たせていません。例えば、世界には報道されない武力紛争があるなど、ニュース報道には偏りがあります。ソーシャルメディアの出現により、このギャップは前向きに埋められています。しかし、人々はしばしばインターネットにより、誤った方向に誘導され、差別的な態度を取るようになることがあります。また、私達は紛争の行われた地域や開発途上国においてはインターネットに容易にアクセスできない人々がいることを忘れてはなりません。

このメディアによって情報が十分に伝えられていないという課題を克服するため、私達はメディア・リテラシーを改善する必要があります。つまり、批判的な姿勢でメディアにアクセスしたり、見たり、読んだりしなければならないということです。主要メディアが私達の主たる情報源である一方、現在起きているオンラインやソーシャルメディアへの移行は不可欠です。こうしたものを効果的にバランスよく利用できるかどうかは私達にかかっています。例えば、多言語メディアは拡大されるべきです。これにより、日本語や英語だけでなく、国連の公式言語など、多くの主要言語でオンラインでのアクセスができるようにすべきです。私達は書籍やパンフレットなどのデジタル技術を必要としない伝統的なメディアの使用を継続することの必要性も強調しておきます。

■ 若者の役割

被爆者が高齢化していることから、私達若者一人一人が、彼らの平和のメッセージを次世代へ伝えるために、何ができるのかを考える必要があります。

核兵器の廃絶のため、私達世界の若者は次の行動を取ることができます。第一に、人々の注意を喚起するため、様々なツールを使うことができます。例えば、世論に影響を与えるため、核兵器廃絶に向けて署名を集めることです。もし、私達が「核のタブー」という考え方を広めることができたなら、核抑止論

を乗り越えることができます。第二に、それぞれの国・地域に戻ってから、広島での経験を広め、アクションプランを実施することもできます。このような取組は、核兵器のない世界を推し進める若者達のネットワークを広げるに違いありません。第三に、私達は自分自身を教育し続けます。核兵器に関する知識のみならず、他国を理解することは、国々が不信を乗り越えるための基本的な条件です。

復興と平和構築のために、平和なコミュニティを構築することは不可欠です。このため、将来世界のリーダーとなる私達若者は、日常生活において以下の貢献をすることができます。第一に、差別を乗り越えるために、他人や困っている人々に親切にします。情けは人のためならず、です。第二に、私達は正義のために発言することを恐れません。第三に、バランスの取れた見方を習得するため、自分達のメディア・リテラシーを向上させます。第四に、私達は、このひろしまジュニア国際フォーラムでの友人を含む、友情のネットワークを作って、国々のパートナーシップの橋渡しをしていきます。

核兵器廃絶と平和構築の両方で、私達若者は、ソーシャルメディアやクラウドファンディングといった新たな手法を使って、平和の効果的なメッセンジャーになることができます。

■ 広島役割

最後に、上記課題の解決に向けて、どうすれば広島が貢献できるかについて考えました。

1 第二次世界大戦が終わって73年がたち、核兵器の人道上の結末についての悲惨な記憶が色あせてきています。広島が、これまで以上に、その歴史や被爆者の証言を世界と共有することが重要になっていると考えています。核兵器に関して人々の関心を高めることは重要ですが、世界に対して核兵器の放射線が世代を超えて被爆者に影響を与えていることを知らしめることも、同様に不可欠なことだと思います。広島は平和のハブであり、メッセンジャーであり、平和を想起させる都市であるべきです。そのために広島は、若い世代に訴えていく、新しいやり方や形を探っていくべきだと思います。ドラマや芸術、音楽や漫画、ソーシャルメディアが、より効果的に使用されるべきです。私達は、広島は常に時代に適応し、その手法を最新のものにしていくことを提案します。

2 私達は学校での平和学習プログラムもまた、重要だと強く感じています。しかしながら、広島の中と外では、平和教育に差があるように思えます。私達は被爆者、すなわち戦争を体験し、直接に惨禍を経験した人々の声を聴き、平和な将来を生み出すために直にその歴史から学ぶ必要があります。平和教育プログラムを拡大し、その範疇を広げるため、プログラムでは、広島のみならず、日本の他の地域や他国の話や悲劇についても触れられるべきです。

3 私達はまた、ひろしまジュニア国際フォーラムのような国際交流プログラムが大変重要だと考えており、ありがたく思っています。このような交流プログラムは、私達の考え方の幅を広げ、考えや経験を共有する重要な機会となります。平和はコミュニケーションから始まります。広島は平和について討議し、考えるのに理想的な都市です。私達はこうした交流プログラムの継続が、平和への道を開くと考えており、老若の異なる世代に働きかけ、巻き込んでいく形で、実施されるべきだとも考えます。

<結語>

私達は若いですが、それは何もできないということではありません。私達は世界市民であり、世界平和について心配しています。このように責任ある市民として、私達は、選挙に関心を持ち続け、リーダーによる決定を批判的に見ていきます。さらに、私達は、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて取り組んでいる市民社会を支援し、さらには積極的に参加することで、それぞれの地域の、そして世界のコミュニティに関わります。

しかしながら同時に、私達は小さなことに感謝することの重要性も強調したいと思います。私達自身が心を開き、情熱を持ち続け、何より私達自身から変わることが大切です。大きいことだから重要で、小さいことだから重要ではないということでもありません。

平和の大使として、私達はこの宣言で示した目標やイニシアティブに沿って、世界平和に貢献することを誓います。目標達成に向けた私達の使命と情熱が、私達を導き、励ましてくれると思います。より良い未来に向かって努力を始める準備はできています。